

夢と志を育てる学園

2020
秋号

vol. 94

玉手山学園 広報

巻頭 理事長挨拶

コロナに向き合い そして 教育・学修を(できる方法を)
Tama Caféファンが学園ファンに(学園(人)が好き)に



恩 感

建学の精神「感恩」

人は さまざまな恩のもとで 生かされている
この真理に目覚め 感動と感謝から生まれる 豊かな心と情熱をもって
人の幸せを願い 行動するとき 私たちは成長し 社会に貢献できる
～「ありがとう」に出会い 気づき 感動 感謝の行動から
新しい「ありがとう」が生まれる～

コロナに向き合い

そして 教育・学修を(できる方法を)

Tama Café ファンが 学園ファン(学園(人)が好き)に



Tama Caféにも飛沫拡散低減の“仕切り板”設置

教育・学修とコロナ対策を併行

自分の周りにコロナウイルスは“いる！”

今、人類は新型コロナウイルスと向き合いながら、豊かに生き続けるための社会活動を続けています(人類の歴史はウイルスとの戦い、克服)。今春の「3密」低減 学園内への入構制限 遠隔教育」に始まり、学園構成員(学生・生徒・園児、教職員 以下「学園の仲間」と称す)も、誰もが未経験の“コロナ制限”をよく受け入れてくれています(今も継続中)。みなさまのご理解・ご協力のおかげで、玉手山学園は「教育・学修とコロナ対策」を併行させ得ています。「感恩」

玉手山学園が、元気であり続けるために、次のことをご理解いただき、協同・実践をお願いいたします。

1. 自衛(他衛)の当事者意識を高めて学内外で実践 マスク、手洗い、消毒はもちろん…

“3密(密閉 密集 密接)”を低減 学園の仲間およそ5,000人の一人一人が意識・実践

授業中はよく意識して実践できている

自由時間は“**たまに赤信号**”(局所的“3密”発生 自ら気づき自ら離れる!)

自分の周りにコロナウイルスは“いる!” “もらわない!” 自衛(自分を守る)

自分も感染者(全く無症状だけど)かもしれない 他衛(他人を守る) 自分を守れば他人も守れる

2. 感染者(濃厚接触者含む)の人権を守る(偏見をもたない)(今 自分は感染していないだけ)

感染者は**学園全体で守る!** 感染者の“元氣”復活を応援する

3. 対面教育活動(授業、クラブ活動等)を大切にする(守り抜く)

学園の仲間が感染しないことが求められる

感染者が出れば、対面教育活動は“一定期間 制限”される(入構制限等)

4. コロナ第2,3波に備える 対面教育活動は続ける(ゼロにしない) 併行して 遠隔教育・学修

遠隔 (online) 教育・学修に慣れる (同時(Real time) 双方向交信含む)

Tama Café を街(地域)の人にも 開放(R2.10.1~予定 コロナに留意して)

何のために? どうなる?

Tama Café で、豊かな「食」(夢と志を育てる源)の実現に学園はチャレンジしています。
そのTama Café で街(地域)の人にも「食」を楽しんでもらいたいと考えています。
何のために…でしょうか? 地域に開かれた学園を…と国(文科省 教育行政)も推奨しています。

・Tama Café を楽しんでもらう(学生、生徒、園児を優先)

※一般の方は13:30以降にご利用可能

街(地域)の人には“メンバーパス(身分証明)”を発行

・学園の仲間と街(地域)の人が交流

互いを身近に感じ(視線を意識)、
互いの気配りから自然な“親近感 共生感”が育つ

・学園の仲間が地域のファンに

街(地域)の人が学園のファンに

交流の場(情報交換等)が増えれば、
できること(感動、感謝の機会)が増える 学園の仲間も成長



Tama Café ここで街の人も憩う??



G2 4F屋外テラス Did you know?

学園2号館(R2.6~)を もっと身近に快適に

2,3F Learning Commons を“人気スポット”に

学園2号館が6月にオープンしました。
2,3階のLearning Commonsは学生で賑っています。
もっと身近に、欲張って使ってほしいから、遠慮せず色々なご提案をください。例えば……
もっと遅くまで… 泊まれないか… 周りがうるさ過ぎるときが… もっと席を… etc…
みなさんの豊かな発想と“協同・共生力”が、さらに快適な空間を創ります。

「夢と志」を育てる学園をめざす 基本は For the students の視座

「何ができるのか 何をすべきか」
“やってみよう! Yattemiyou!”

学園の仲間が各々の役割を果たし、学園が面白くなり
豊かに成長します。

令和2年5月撮影
Greenが目目 Front square(R3.3完成予定)はタミー



恩 感

建学の精神「感恩」

理事長・学園長 江端 源治

学園2号館が 建築専門誌「近代建築」に 掲載されました

法人本部施設部 田堀 富造

令和2年6月から皆さんが利用している学園2号館が、月刊「近代建築」第74巻7号(令和2年7月発行)に特集学校建築「つながる学校」の事例として紹介されました。

特集の趣旨にあう学校建築を探していた出版担当の方が、本学のホームページで学園2号館の存在を知り、本学に取材依頼がきたことを皮切りに、取材や写真撮影が行われました。

学園2号館は、「For the Students」をコンセプトとし、多様な学修スタイルに適應したラーニングcommonsや、多目的利用にも対応できる講義室など、「学び」と「交流」の場となるよう、学生・教職員によるワーキングチームが議論を重ね、様々なアイデアを盛り込んだ建物です。

是非、ご利用いただき、使い勝手の良さを体感してください。

(ご参考)

月刊「近代建築」とは、最新の建物紹介をはじめ、動向の注目される設計事務所などタイムリーな特集記事および新製品・技術紹介等を通じ、変化する建築の全容を伝える誌面を目指しています。特に教育施設・医療施設・集合住宅・再開発・リニューアル・環境建築特集ではその年注目の作品を紹介。建築関係者はもとより、建築に関心をもたれる幅広い分野の方々に向けた建築総合誌です。(近代建築HPより)

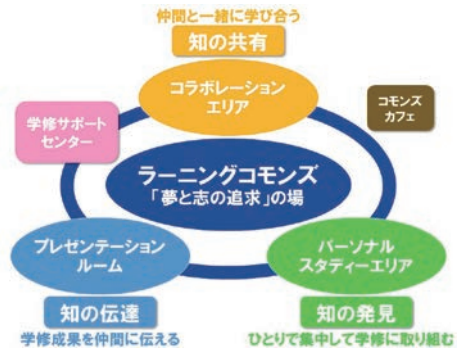


新ラーニング commons の紹介

ラーニング commons 長 治部 哲也

新校舎に新しいラーニング commons がオープンしました。学生たちにとって使い勝手がよく居心地のよい空間とするために、学生たちの意見を参考に、教職員が協働して検討を重ね完成に至りました。

新校舎の2階から3階のフロア全体がラーニング commons (以下LCと略す) になっています。LCは、コラボレーションエリア、プレゼンテーションルーム、パーソナルスタディーエリアの3つのエリアに分かれ、学修サポートセンターや commons カフェが設置されています。学生の皆さんの「学び」「交流」「くつろぎ」の場として是非ご活用ください。なお、開室時間や利用ルールについては別途案内している情報をご確認ください。



●コラボレーションエリア (2階・3階)

仲間と一緒に学びあう「知の共有」空間

2階はシックで落ち着いたカフェのような雰囲気、3階は明るく活発な雰囲気に仕上げました。そのときの気分や学修スタイルに合わせて使い分けられるのもよいでしょう。各階にベンチシートを設置し、くつろぎながら学修に取り組むこともできます。3階には自由に使える移動式ホワイトボードパネルを設置しています。仲間との学びあいに活用してください。



●プレゼンテーションルーム (2階)

学修成果を仲間に伝える「知の伝達」空間

各部屋にプロジェクターを完備しています。セパレートタイプのテーブルは用途に応じて自由にレイアウト変更が可能です。壁面はホワイトボードとなっており、グループワークを行う際に役立ちます。なお、プレゼンテーションルームは予約制となっています。



●パーソナルスタディーエリア (3階)

ひとりで集中して学修に取り組む「知の発見」空間

集中しやすいように各ブースをパーティションで仕切りました。多くの資料を広げて学修できるように一人あたりの空間をとでも広くしています。なかでも円型のブースは、まるで個室にいるかのようにひとりで静かに落ち着いて学修ができる空間となっています。ただし、完全に私語厳禁とはしていません。もともとLCは学生同士の交流の場であり、パーソナルスタディーエリアにおいても他者に迷惑をかけない程度の会話は許容しています。より静かな学修環境を好まれる方は図書館をご利用ください。また学生たちから学修しながら軽食をとりたいたいという要望もあったため、飲食可(ただし食事はあまり匂いのしないものに限る)としています。



●学修サポートセンター

スタッフ入室時にノートPCやプロジェクター等の備品類の貸出などを行います。

●commons カフェ



こだわりポイント!

1 大きなテーブル

コラボレーションエリアのテーブルはすべて奥行120cm以上のものを採用しています。実際に学生たちが沢山の資料を広げて学修している様子を観察し、学生たちにヒアリングした結果から、広いテーブルがよいと判断しました。対面に座って互いに沢山の資料を広げても十分なスペースを確保しています。パーソナルスタディーエリアの1区画の幅は約170cm、円型ブースは約120cmとなっており、こちらもゆとりとしたスペースを確保しています。



2 ベンチシート

皆さんにとって馴染み深い「ファミレス席」です。座り心地(居心地)が良く、ついでに長居したくなってしまいます。シート横に電源コンセントが設置されている優れたものです。



3 200インチスクリーン

普段は収納されていて気付かないと思いますが、2階コラボレーションエリアには200インチスクリーンとプロジェクターが設置されており、各種イベント時に活用します。今年の東京オリンピックをこのスクリーンでパブリックビューイングしたかったのですが、残念ながら叶いませんでした。来年を楽しみにしておきましょう。



4 電源コンセントとWi-Fiアクセスポイント

LC内には随所に電源コンセントを配置しています。フロア全体をカバーするWi-Fiアクセスポイントも設置しています。これらは自由に使用可能です。ICT機器を学修にフル活用してください。



●ラーニング commons の概要

名称	利用形態	着席可能人数 ^{※1}	飲食ルール
コラボレーションエリア (2階)	フリー	120	飲食可 ^{※2}
コラボレーションエリア (3階)		133 (+予備16)	
プレゼンテーションルーム (2階)	予約必須 (教務部へ)	A:24、B:20、C:12、 D:12、E:22	飲のみ可
パーソナルスタディーエリア (3階)	フリー	51	飲食可 (ただし食事はあまり 匂いのしないもの に限る)
学習サポートセンター			

全エリア共通：電源コンセント・Wi-Fi・ホワイトボードパネル(3F)・荷物カゴは自由に利用可能
貸出可能備品^{※2}：PC20台(今後増設予定)、貸出専用ホワイトボードパネル、プロジェクター

注1: COVID-19対策のため、当分の間座席数を1/2程度に間引いて運用しています。
注2: COVID-19対策のため、当分の間貸出を中止しています。



教育・学修とコロナ



従来の教育活動を行うことが困難な状況の中、世界中の教育機関が教育活動の質の維持(向上)を模索しています。本学もその使命を果たすため、学内での感染拡大のリスクを低減したうえで、可能な限り多くの対面授業を実施し、学生の学修機会の確保と教育の質の向上に努めます。

秋学期は春学期の状況を踏まえ、以下のような取り組みにより、対面授業の拡大を図ります。対面授業の継続には、各校に新型コロナウイルス感染症の感染者がいらないこと等の最低基準を満たしている必要があり、皆さん一人ひとりの協力なしには成り立ちません。引き続き、ご理解とご協力をお願いします。

I. 安全・安心な教育環境 ▶



①対面授業

本学では対面授業を実施するにあたり、3密(密閉、密室、密集)を避けるため、適切な授業環境の整備に取り組んでいます。なお、授業時間については、事前に文部科学省等関係省庁に確認の上、時差授業にて実施しています。

◆授業時間

【大学】

60分対面授業+30分相当の課題等による遠隔での実施

対面授業時間割

1限 10:00~11:00	2限 11:15~12:15
3限 13:05~14:05	4限 14:20~15:20
5限 15:35~16:35	6限 16:50~17:50

【短期大学】

75分対面授業+15分相当の課題等による遠隔での実施

対面授業時間割

1限 10:00~11:15	2限 11:25~12:40
3限 13:30~14:45※	4限 14:55~16:10※
5限 16:20~17:35	

※歯科実習 3限 13:30~15:25 4限 15:35~17:30

◆教室

余裕を持った教室配当(大学:学生同士の距離は1.5m以上(条件を満たせない講義科目は、「交代制」の導入や「動画のオンデマンド配信」等により、学生間で等しく対面授業・遠隔授業を混在させる)、短大:学生数の2倍以上の座席数がある教室を使用)、全席座席指定に加え、教室内外の窓、扉の開放、換気・空調の全運転を行うなど、教室内の空気の循環を常時行うことで3密のリスク回避に努めています。

また、授業時においては、授業担当を行う全教員が「授業環境等チェックリスト」をもとに授業前、授業開始時、授業終了後において毎時間学生にむけて指導・確認を行っております。チェック項目は、マスク着用の徹底、手指のアルコール消毒の利用、体調不良の有無、教室の窓、扉の換気、不要な近距離での会話への指導等です。教室内の消毒も行っています。

②図書館

◆図書館に来館しなくても利用できるサービススタート

学生の皆さんが、図書館資料を自宅学習等に利用いただけるよう、関西福祉科学大学図書館・関西女子短期大学図書館が所蔵している図書を郵送で貸出、またはロッカーにてお受け取りできるサービスを実施しています。

貸出冊数 : 合計10冊迄

対象者 : 本学の大学生、大学院生、短大生

申込方法等については、本学ホームページをご確認ください。

③その他学園共同施設(スクールバス・食堂)

施設を適宜消毒するとともに、スクールバス・食堂においても以下の取組みを行っています。

◆スクールバス

- 定員の60%を上限に乗車制限を行い、密にならない乗車状態を確保(バス乗降場で職員が学生・生徒を誘導し、乗車人数を調整するとともに増便対応も実施)
- 運行中は窓を開け、常時換気を徹底
- 車内消毒を適宜実施
- 乗降口に消毒液を設置
- 乗車中、会話を控えることやマスク着用等の協力を要請
- 運転手のマスク着用、健康管理強化を徹底

◆食堂

- 大学・短大の教室を昼食時に開放し、食事場所を分散することで密を防止
- 飛沫拡散防止のため向い席・隣席との仕切り板を設置
- 椅子の背もたれに「使用禁止」を表示し、座席間のスペースを確保
- 食堂の扉・窓を開け、常時換気を徹底
- 営業時間の前後、営業時間中に食堂内の消毒を適宜実施
- 感染症対策の啓発ポスターを掲示し、感染拡大防止の注意を喚起
- 手洗い、消毒、マスク着用、食事中は会話を控えること、食事終了後は速やかに退席すること等の協力を要請
- 毎日食堂の利用状況によりTamateyama Alertを発信し、館内放送やサイネージ(電子掲示板)などで注意喚起
- 食堂スタッフのマスク着用、健康管理強化を徹底

対策の併行にむけて



Ⅱ. 経済的な支援

国・日本学生支援機構の支援に加え、本学独自の施策により、経済的に困窮している学生への学修支援を行っています。

①本学独自の支援

1. 「COVID特別学修支援金」の給付

全学生へ一律30,000円を給付

2. COVID学納金延納制度

令和2年度内に限り、学費延納期限後の再申請可

3. 休学時の在籍料免除措置

COVIDの影響による経済的理由により令和2年度秋学期を休学する場合、休学時の在籍料(大学:8万円、短大:7万5千円)を免除(令和2年度秋学期分に限る)

4. Tama 授業料等特別支援

本特別支援は文部科学省「私立大学等における困窮学生に対する授業料減免等への緊急支援」と連携した支援であり、新型コロナウイルス感染症の影響により、家計が急変するなどして修学が困難と判断される学生に対する支援(一人あたり40万円以内または20万円以内)

②国・日本学生支援機構の支援

1. 「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』

新型コロナウイルス感染症の影響で、世帯収入・アルバイト収入の大幅な減少により、大学等での修学の継続が困難になっている学生等に対し、住民税非課税世帯の学生等は20万円、それ以外の世帯の学生等は10万円を給付



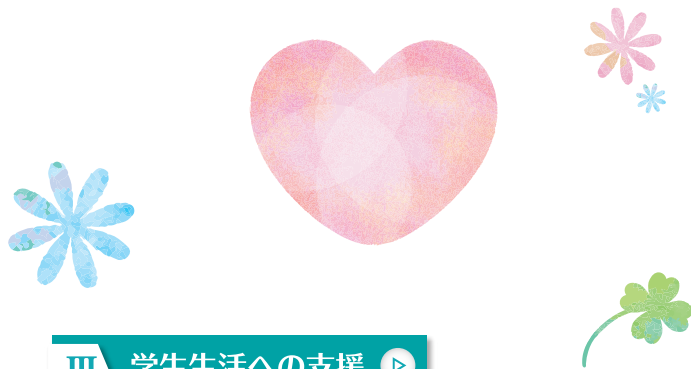
2. 高等教育の修学支援新制度(授業料等減免・給付型奨学金)

高等教育の修学支援新制度において、新型コロナウイルス感染症の影響で家計が急変した学生等については、災害時と同様の考え方等で、家計急変後の所得見込みで判定を行い、要件を満たす学生を支援



3. 緊急特別無利子貸与型奨学金(日本学生支援機構)

新型コロナウイルス感染症の影響で、世帯収入やアルバイト収入等が大幅に減少し、修学継続が困難となった学生等に対し、緊急的に一定期間(令和3年3月まで)、特別の貸与を実施



Ⅲ. 学生生活への支援

学生さん一人ひとりに対し、担当の専任教員が、入学時から卒業時まで継続的に、大学生活を送るにあたって直面する様々な問題(学習面から生活面まで)への相談に応じ、相談内容に応じて、学内の適切な機関と連携し、解決にむけたサポートを行う体制をとっています。各種事情により学修継続に不安がある方は、担当教員にご相談ください。

また、その他にも学内には専門のカウンセラーが相談に応じる学生相談室などもありますので、一人で悩みを抱えこまずに、気軽にご利用ください。



隣の席との間にビニールカーテンをつけました



前後左右は1席空けて着席しています

高校 入学式

高校 島名 きよみ

6月15日(月)、うっすらと汗ばむ気候の中、令和2年度入学式を挙行之、夏服に身を包んだ384名の新入生を迎えました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2ヶ月以上延期となりましたが、平日にもかかわらず、たくさんの保護者の方々に出席いただきました。

新入生は、校長先生の話に熱心に聞き入り、特別進学1コースの田中 日奈多さんの希望溢れる「新入生宣誓」や生徒会副会長の中島 勇瑛彌君の心温まる「在校生歓迎の辞」、さらに初めて聞く「校歌」などでは、少し緊張した様子でした。しかし、「高校生としての決意」を新たにした表情がしっかり感じられました。

少し規模を縮小した形で行われ、また、3密を避けるため、本校初のライブ映像配信を実施し、保護者の皆様には教室のスクリーンで、記念講堂での入学式の様子を観ていただきました。臨場感溢れる映像に熱い視線を送ってられる保護者の方々の姿を拝見し、無事、入学式を実施できた喜びに胸を撫でおろしました。

梅雨に入っていたにもかかわらず、晴天に恵まれ、緑に色づき始めた木々や爽やかな風が、新入生を温かく祝福する素晴らしい入学式となりました。



「ただいま!! ようちえん」

幼稚園 畑段 光

7月22日(水)、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休園のため、お別れ会ができていなかった令和元年度卒園生に参加をつのり、保護者会協力のもと、夕涼み会を行いました。

子どもたちは「先生～」と元気いっぱい、幼稚園に帰ってきてくれました。久しぶりの幼稚園や友達との再会に大喜びで、楽しそうに話をする声が止まりませんでした。夕涼み会が始まると、幼稚園の時の姿に戻ったように、ヨーヨー釣りや金魚すくい、お山での遊びを汗いっぱいかきながら

存分に楽しみました。そして最後は、みんなで打ち上げ花火を見ました。花火が上がるたびに、大きな歓声と拍手で、大盛り上がりでした! 花火が終わると、「もう帰るの～?」「まだ幼稚園にいたいな～」と少し寂しそうな声が聞こえてきました。

久しぶりに幼稚園で先生や友達と再会することができ、夏の楽しい思い出の1つになったのではないかと思います。私たち職員も、子どもたちのキラキラした笑顔と元気いっぱいの姿に、懐かしい思いを感じながら、元気をたくさんもらいました。



たのしかった夏祭り!

幼稚園 藤本 歩

7月20日(月)、夏祭りを行いました。いつもと違う登園時間にワクワクしながら登園した子どもたち。お天気に恵まれ、元気な子どもたちの声と共に夏祭りがスタートしました。夏祭りでは金魚すくいやヨーヨー釣り、迷路、ジャンボ紙芝居、うちわ作りを楽しみました。そして夕食は子どもたちが大好きなカレーライス! お腹いっぱい食べた後、キャンプファイヤーを囲んでみんなで盆踊りをしました。盆踊りの後は、子どもたちお待ちかねの花火! 夜空に上がったきれいな花火をみんなで見ました。打ち上げ花火が上がるたびに子どもたちから大きな歓声が上がりました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年は年長組のお泊りはありませんでしたが、夏の楽しい思い出がいっぱいできたと思います。



令和元年度 決算概要

資金収支計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで (単位 千円)

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金収入	4,468,629	人件費支出	3,443,969
手数料収入	60,596	教育研究経費支出	1,346,402
寄付金収入	5,414	管理経費支出	484,611
補助金収入	1,346,919	借入金等利息支出	0
資産売却収入	663	借入金等返済支出	0
付随事業・収益事業収入	103,877	施設関係支出	1,814,458
受取利息・配当金収入	17,570	設備関係支出	109,030
雑収入	155,824	資産運用支出	266,890
借入金等収入	0	その他の支出	305,277
前受金収入	741,253	資金支出調整勘定	△250,114
その他の収入	582,276	翌年度繰越支払資金	1,735,355
資金収入調整勘定	△1,164,605		
前年度繰越支払資金	2,937,463		
収入の部 合計	9,255,877	支出の部 合計	9,255,877

※勘定科目ごとに数値を四捨五入して記載しておりますので合計額とは一致していない場合があります。

事業活動収支計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで (単位 千円)

事業活動収入の部		事業活動支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金	4,468,629	人件費	3,476,254
手数料	60,596	教育研究経費	1,916,477
寄付金	6,187	管理経費	536,163
経常費等補助金	1,135,548	徴収不能額等	750
付随事業収入	103,877		
雑収入	145,640		
教育活動収入計	5,920,476	教育活動支出計	5,929,644
教育活動収支差額	△9,167		

事業活動収入の部		事業活動支出の部	
科目	決算	科目	決算
受取利息・配当金	17,570	その他の教育活動外支出	0
教育活動外収入計	17,570	教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額	17,570		
経常収支差額	8,403		

事業活動収入の部		事業活動支出の部	
科目	決算	科目	決算
資産売却差額	663	資産処分差額	21,455
その他の特別収入	230,308	その他の特別支出	200
特別収入計	230,971	特別支出計	21,654
特別収支差額	209,317		

基本金組入前当年度収支差額	217,720
基本金組入額合計	△1,217,857
当年度収支差額	△1,000,138
前年度繰越収支差額	△3,139,106
基本金取崩額	2,162
翌年度繰越収支差額	△4,137,081
(参考)	
事業活動収入計	6,169,017
事業活動支出計	5,951,298

※勘定科目ごとに数値を四捨五入して記載しておりますので合計額とは一致していない場合があります。

【資金収支計算書】

<収入の部>

学生生徒等納付金収入は、少子化傾向が続く中ではありますが、学生募集活動により学生・生徒数が当初の見込みを上回り、予算比では116百万円増加、前年度比9百万円増加の4,469百万円となりました。

手数料収入は、入学検定料収入が減少したため、予算比2百万円減少、前年度比4百万円減少の61百万円となりました。

寄付金収入は、予算比5百万円増加、前年度比ほぼ同額の5百万円となりました。

補助金収入は、予算比185百万円増加、前年度比182百万円増加の1,347百万円となりました。

付随事業・収益事業収入は、予算比11百万円増加、前年度比2百万円減少の104百万円となりました。

受取利息・配当金収入は、予算比2百万円増加、前年度実績とほぼ同額の18百万円となりました。

雑収入は、主として私立大学退職金財団及び大阪府私学総連合会からの交付金収入で構成されており、予算比46百万円増加、前年度比12百万円増加の156百万円となりました。

前受金収入は、奨学金支給対象者が想定以上に多かったため、予算比184百万円減少、前年度比53百万円減少の741百万円となりました。

その他の収入は、当年度において学園新校舎建築のために積立していた第2号基本金引当特定資産の取崩収入を計上したため、予算比10百万円増加、前年度比373百万円増加の582百万円となりました。

その結果、収入の部合計は、予算比88百万円減少、前年度比267百万円増加の9,256百万円となりました。

<支出の部>

人件費支出は、予算比15百万円減少、前年度比34百万円減少の3,444百万円となりました。

教育研究経費支出は、実習費支出、報酬委託手数料支出等が想定よりも少なく、予算比46百万円の減少となりました。一方、当年度は立教館改修工事に係る修繕費支出があったことや奨学金支出の増加の影響により、前年度比では35百万円増加し、1,346百万円となりました。

管理経費支出は、報酬委託手数料支出等が想定よりも少なく、予算比13百万円の減少となりました。また、補助活動費支出が前年度よりも大きく減少したため、前年度比17百万円減少の485百万円となりました。

施設関係支出は、今年度実施予定案件のうち、一部が未実施となったため、予算比161百万円の減少となりました。一方、学園新校舎建築工事に係る支出があったため、前年度比は1,390百万円増加し、1,814百万円となりました。

設備関係支出は、施設関係支出と同様、今年度実施予定案件のうち、一部が未実施となったため、予算比37百万円減少、前年度比24百万円減少の109百万円となりました。

資産運用支出は、退職給与引当特定資産繰入支出32百万円、収益事業元入金支出30百万円、減価償却引当特定資産への繰入205百万円の合計額であり、予算比同額、前年度比53百万円増加の267百万円となりました。

上記の結果、翌年度繰越支払資金は予算比325百万円増加、前年度比1,202百万円減少の1,735百万円となりました。

【事業活動収支計算書】

(教育活動収支)

教育活動収入は、学生生徒納付金が想定より上振れて予算比で152百万円増加、前年度比13百万円増加の5,920百万円となりました。

教育活動支出は、人件費及び管理経費が減少したため、予算比66百万円の減少となりました。一方、教育研究経費が増加したため、前年度比12百万円増加の5,930百万円となりました。

その結果、教育活動収支差額は予算比219百万円増加、前年度比2百万円増加の△9百万円となりました。

(教育活動外収支)

教育活動外収入は、受取利息・配当金のみであり、予算比2百万円増加、前年度実績とほぼ同額の18百万円となりました。教育活動外支出は、借入金等利息等ですが、借入金がないので予算、実績共0です。

その結果、教育活動外収支差額は予算比2百万円増加、前年度実績とほぼ同額の18百万円となり、経常収支差額は、予算比220百万円増加、前年度比2百万円増加の8百万円となりました。

(特別収支)

特別収入は、学園新校舎に係る施設設備補助金を計上したため、予算比は220百万円増加、前年度比186百万円増加の231百万円となりました。

特別支出は、図書除却差額が前年度よりも多額であった影響により予算比ほぼ同額、前年度比19百万円増加の22百万円となりました。

その結果、特別収支差額は、予算比220百万円増加、前年度比167百万円増加の209百万円となりました。

(当年度収支差額等)

基本金組入前当年度収支差額は、前年度より教育研究経費等の教育活動支出や資産処分差額等の特別支出が増加したものの学生生徒等納付金等の教育活動収入や施設設備補助金等の特別収入が増加したことにより、予算比457百万円増加、前年度比169百万円増加の218百万円となりました。

基本金組入額合計は、今年度実施予定の施設及び設備の整備に係る案件の内、一部が未実施となったこと等により、予算比503百万円の減少となりました。

一方、学園新校舎建築工事に係る1号基本金への組入などがあり、前年度比は787百万円増加し、1,218百万円となりました。

その結果、当年度収支差額は予算比960百万円増加、前年度比618百万円減少の△1,000百万円となりました。また、基本金取崩額2百万円があり、翌年度繰越収支差額は予算比962百万円増加、前年度比998百万円減少の△4,137百万円となりました。

貸借対照表

令和2年 3月 31日 (単位 千円)

資産の部		負債の部	
科目	本年度末	科目	本年度末
固定資産	22,019,054	固定負債	743,651
有形固定資産	15,368,740	退職給与引当金	743,651
特定資産	5,983,150	流動負債	1,355,887
その他の固定資産	667,163	前受金	741,253
流動資産	2,120,919	その他	614,634
現金預金	1,735,355	負債の部合計	2,099,537
その他	385,564		
		純資産の部	
		科目	本年度末
		基本金	26,177,517
		第1号基本金	25,811,517
		第2号基本金	0
		第4号基本金	366,000
		繰越収支差額	△4,137,082
		翌年度繰越収支差額	△4,137,082
		純資産の部合計	22,040,435
資産の部合計	24,139,972	負債及び純資産の部合計	24,139,972

※勘定科目ごとに数値を四捨五入して記載しておりますので合計額とは一致していない場合があります。

【貸借対照表】

資産の部において、有形固定資産は、学園新校舎建築工事があったこと等により、前年度末比1,290百万円増加の15,369百万円となりました。

特定資産は、退職給与引当特定資産が32百万円、減価償却引当特定資産が205百万円増加したものの、学園新校舎建設に伴い第2号基本金引当特定資産を全額取崩したため、前年度末比163百万円減少の5,983百万円となりました。

その他の固定資産は、収益事業元入金の増加等により、前年度末比30百万円増加の667百万円となり、固定資産合計では前年度末比1,157百万円増加の22,019百万円となりました。

流動資産は、主として現金預金が減少したため、前年度末比1,005百万円減少の2,121百万円となりました。

その結果、資産の部合計は前年度末比151百万円増加の24,140百万円となりました。

負債の部においては、主として前受金及び未払金が減少したため、負債の部合計は前年度末比66百万円減少の2,100百万円となりました。

純資産の部において、基本金は、学園新校舎建築工事に伴い、第1号基本金が増加したため、前年度末比1,216百万円増加の26,178百万円となりました。

繰越収支差額(翌年度繰越収支差額)は、事業活動収支計算書の当年度収支差額等で述べたように、前年度末比998百万円減少の△4,137百万円となりました。

その結果、純資産の部合計は前年度末比218百万円増加の22,040百万円となりました。

令和2年度 予算概要

資金収支予算書

令和2年 4月 1日から 令和3年 3月31日まで (単位 千円)

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
学生生徒等納付金収入	4,418,767	人件費支出	3,375,696
手数料収入	60,360	教育研究経費支出	1,421,294
寄付金収入	350	管理経費支出	510,622
補助金収入	1,116,112	借入金等利息支出	0
資産売却収入	0	借入金等返済支出	0
付随事業・収益事業収入	86,961	施設関係支出	327,794
受取利息・配当金収入	15,000	設備関係支出	241,305
雑収入	66,886	資産運用支出	59,900
借入金等収入	0	その他の支出	250,518
前受金収入	925,784	[予備費]	20,000
その他の収入	2,299,902	資金支出調整勘定	△84,011
資金収入調整勘定	△787,694	翌年度繰越支払資金	3,814,665
前年度繰越支払資金	1,735,355		
収入の部合計	9,937,783	支出の部合計	9,937,782

※勘定科目ごとに数値を四捨五入して記載しておりますので合計額とは一致していない場合があります。

【資金収支予算書】

令和2年度予算は、施設や設備などの投資に係る支出が前年度と比べて減少したものの、収支の均衡を欠く予算編成となりました。

資金収入は、厳しい学生募集環境にありながら、学納金が前年度予算に比べて増加するものの、経常費補助金等の減少により、前年度比31百万円減となりますが、今年度は、減価償却引当特定資産の取崩収入1,930百万円の計上があり、8,202百万円となりました。

資金支出は、昨年度に引き続き、学園新校舎建設等の積極的な投資を含んでいるものの、前年度比1,810百万円減の6,123百万円となりました。

その結果、資金収支差額が2,079百万円となり、次年度繰越支払資金が増加する予算編成となりました。

【事業活動収支予算書】

事業活動収支においても資金収支と同様の要因により、事業活動収入は、学納金が前年度予算に比べて増加するものの、経常費等補助金等が減少する見込みであり、前年度比30百万円減の5,764百万円となりました。

事業活動支出は、教育研究経費及び管理経費が前年度予算に比べて増加するものの、人件費が減少する見込みであり、前年度比34百万円減の6,000百万円となりました。

基本金組入額は、学園新校舎の昨年度分の建築額が大きかった反動により、前年度比1,154百万円減の567百万円となりました。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は前年度比4百万円増△235百万円、基本金組入後の当年度収支差額は前年度比1,158百万円増△802百万円となり、翌年度繰越収支差額が減少する予算編成となりました。

事業活動収支予算書

令和2年 4月 1日から 令和3年 3月31日まで (単位 千円)

	事業活動収入の部		事業活動支出の部	
	科目	予算	科目	予算
教育活動収支	学生生徒等納付金	4,418,767	人件費	3,400,972
	手数料	60,360	教育研究経費	2,016,347
	寄付金	350	管理経費	560,303
	経常費等補助金	1,116,112	教育活動支出計	5,977,622
	付随事業収入	86,961		
	雑収入	66,886		
	教育活動収入計	5,749,436		
教育活動収支差額			△228,186	
教育活動外収支	事業活動収入の部		事業活動支出の部	
	科目	予算	科目	予算
	受取利息・配当金	15,000	その他の教育活動外支出	0
	教育活動外収入計	15,000	教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額			15,000	
経常収支差額			△213,186	

特別収支	事業活動収入の部		事業活動支出の部	
	科目	予算	科目	予算
	資産売却差額	0	資産処分差額	1,924
	その他の特別収入	0	その他の特別支出	0
	特別収入計	0	特別支出計	1,924
	特別収支差額			△1,924
	[予備費]			20,000
	基本金組入前当年度収支差額			△235,110
	基本金組入額合計			△567,175
	当年度収支差額			△802,285
	前年度繰越収支差額			△4,137,082
	基本金取崩額			0
	翌年度繰越収支差額			△4,939,367
	(参考)			
	事業活動収入計			5,764,436
	事業活動支出計			5,999,546

※勘定科目ごとに数値を四捨五入して記載しておりますので合計額とは一致していない場合があります。



すくすくこども すくすく自然



幼稚園 島山 由佳理

めばえプロジェクト

～すくすくこども すくすく自然～

本園でしかできない教育がここに 있습니다



「0歳から5歳までの一貫教育」の中で、

- ①「お山のひろば」を活かした教育
- ②生き物に触れる機会を大切にする教育



を通じて、自ら進んでやろうとする意欲を喚起し、
五感を育むとともに、豊かな心を育てます。

伸び伸び遊び、
体力・豊かな感性を
育てる教育

自然との共生を学ぶ
植物栽培教育

栽培活動を通じた
食育

菜園活動を通じた食育

～まっかなトマト、おいしかった!～

幼稚園 平岡 教子

お山に遊びに行く途中に、トマトの苗に気づいた子どもたちは大騒ぎ!「先生、これは何なの?」「あさがお?…」などと口々に言いはじめました。さて、何ができるかはお楽しみ…

それから何日かたつと芽が出てきて葉が大きくなり、変化に気づいた子どもたちは成長を楽しみにしていました。ある日、「あっ!何かなってる」の声に立ち止まり「ほんとうだ、小さいね」「トマトかな?」「でも、トマトは赤だし、これはみどりだよ」と一人ひとりの思いは違い、子どもたちの期待が高まっています。

やがて、みどりからまっかなトマトに育ちました。いよいよ収穫できる事を伝えると大喜び!両手いっぱいにとる子ども、じっくり見つめ、形や大きさを比べる子ども、暑い日



のトマトの収穫は笑顔いっぱいでした。次の日の給食では「あまーい」とうれしそうに食べていました。

今回、トマトの成長や収穫する楽しさを経験させていただき、ほのぼのとした楽しいひとときをすごせたのも大学の先生はじめ学生のみなさんのおかげです。心より感謝申し上げます。

学園広報編集委員会

委員長 湯川 雅紀 (大学教育学部)

委員 横山 学 (大学事務局)

辻村 匡志 (大学事務局)

古橋 正則 (高等学校)

稲垣 晃子 (幼稚園)

植田 陽 (法人本部)

與原 真弓 (法人本部)

松井 愛 (法人本部)